

八島ヶ原湿原への防鹿柵の設置について（案）

1 目的

国の天然記念物に指定されている八島ヶ原湿原における、ニホンジカによる踏み荒らしや植生被害が深刻化しているため、その極めて貴重な自然環境を保全するため、湿原の全方向を囲う防鹿柵を設置する。

2 設置位置

(1) 景観にできる限り配慮して設置するため、5月6日に関係者にて現地で立会いを行った。その結果、概ね別紙「設置位置図（案）」に示した位置に設置する。（総延長約4km）

(2) 遺跡等への配慮

旧御射山神社周辺は県史跡に指定されており、かつ景観上も好ましくないため、防鹿柵は設置しない。また、他の場所でも遺跡と思われる場所は極力避けるルートとする。

天然記念物に係る部分、特に景観に影響がある場所については、文化庁と事前に協議する。

3 予算措置等

南信森林管理署において、林野庁の「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」で予算措置を行う。

(1) 平成22年度 700万円の予算確保

(2) 平成23年度 必要な予算を要望

(3) 対象経費は、防鹿柵の資材及び啓発看板等の購入費であり、設置作業については、協議会構成団体に参加を依頼するとともに、一般からもボランティアを募集して行う。

4 設置スケジュール

(1) 設置年度 平成22年度～23年度

(2) 年度別設置位置 別紙「設置位置図（案）」のとおり

(3) 本年度設置時期

当初6月下旬に設置したいと考えていたが、資材の購入と文化庁等への協議などに時間を要するため、8月下旬以降の平日に6日間程度（3日×2回ないし2日間×3回）かけて設置することとしたい。

5 設置作業

(1) 作業従事者確保

協議会構成団体に参加を依頼するとともに、一般からもボランティアを募る。

(2) 作業リーダー

作業を指導するリーダーを200～300mに一人ずつ程度配置する。

南信森林管理署、地方事務所、市町の行政職員がリーダーをつとめることとし、南信森林管理署が現地において実際の作業を体験する形でリーダー研修を実施する。

6 施設の仕様

- (1) 冬期間を含め通年設置するため、耐久性を考慮して日亜フェンスとする。(詳細は別添「ニホンジカ防護柵標準作設図」のとおり)

ア 高さ：2m

イ 鉄杭間隔：2.5m

- (2) 出入口の設置

防鹿柵と、遊歩道や登山道が交差する場所（5箇所）については、全て出入口を設置する。

ア 形状

シカの侵入を防止するため、ゲート設置とグレーチング敷設を併用する。観光客等がゲートを閉め忘れた場合でも、シカが怖がり渡れない効果のあるグレーチングの敷設により侵入を防ぐことができる。

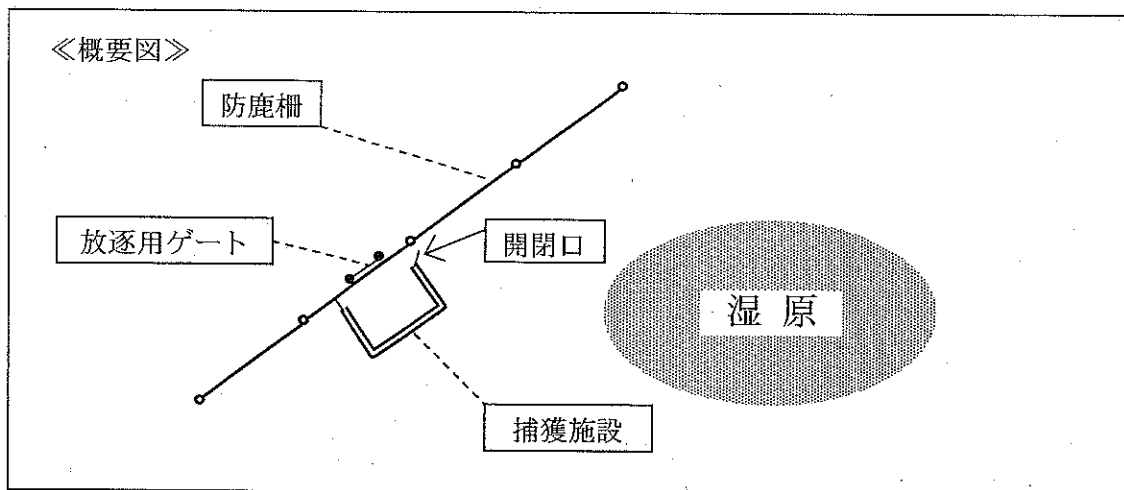
イ グレーチングの敷設方法

木道については、板を取り外してグレーチングを敷設する。市道については、車の通行に耐えられるよう道路管理者である諏訪市建設課と協議する。

- (3) 捕獲施設

侵入したシカを柵外へ追い出すため、柵の内側沿いに袋状の囲いを設置する。

シカは柵沿いに移動するので、囲いへ追い込んで捕獲する。



- (4) 小動物対策

湿原の生態系への影響を抑えるため、テンやキツネ等の小動物が出入りできることが望ましい。フェンスのメッシュの大きさが10cm以上あるので、小動物はくぐり抜けが可能である。

- (5) 色彩

柵の色については目立たないようにダークブラウン（景観色）とする。

7 維持管理方法

- (1) 設置後のこまめな巡回とメンテナンスが必要になる。破損個所の補修はもちろん、シカがフェンスの下部に穴を掘った場合はすぐに埋める必要がある。
 - ア 霧ヶ峰自然保護センター、八島ビジターセンター、諏訪市植物保護指導員、下諏訪町八島湿原保護指導員、八島湿原山小舎組合、パークボランティア等に巡回時にフェンスの確認も依頼し、もし破損場所等を発見した場合は、霧ヶ峰自然保護センターへ連絡してもらおうようにする。
 - イ もしシカが入り込んでしまった場合も、同様に霧ヶ峰自然保護センターへ連絡してもらおうようにする。
 - ウ 霧ヶ峰自然保護センターに情報を集約し、センターから関係機関へ連絡して対処することとする。なお、センターの閉館日及び冬期の閉館期間においては諏訪地方事務所環境課へ連絡することとする。
- (2) 維持修繕費用については、南信森林管理署へ23年度以降の予算要求を要望する。
- (3) 将来的な修繕費用については諏訪市及び下諏訪町において予算措置を検討する。

8 効果・影響の検証方法

(1) 湿原の植生調査

設置前に現在の植生調査を実施し、設置後の植生と比較することにより、設置効果を検証する。

(2) ニホンジカの行動調査

調査方法、予算の確保について、関係機関で引き続き調整する。

二ホンシカ防護柵標準作設図

ポスト施工方法

1. ポスト(鉄杭)の間隔は、2.5mとする。
2. ポスト取り付け金具(部品)は、ポスト1本に5箇所使用する。
3. ポストを埋める深さは、0.5mを目安とする。
4. ポストの間隔12.5m毎と、曲がり角には針金で支線を張る。

フェンス施工方法

1. 網の高さを2.0mとする(2段重ね:上0.9m+下1.1m)
2. 網はポストに取り付け金具で固定する。
3. 上下の網をポスト間で3箇所以上ひねり止めにする。
4. アンカーは、ポスト間の中央部に1本打ち込み、網を地面に密着させ。
5. 入口の設置は、監督員の指示によること。

防護柵資材

1. 金網(上部) ・ 日亜フェンス(835-6 (0.9m × 25m))
2. 金網(下部) ・ 日亜フェンス(943-6B (1.1m × 25m))
3. ポスト(鉄杭) ・ C型ポスト2700(部品5ヶ付)
4. アンカーピン ・ $\phi 9\text{mm} \times 440\text{m}$ 羽根付
5. 針金 ・ $\phi 2.6\text{mm}$

